



正門から校舎を望む。正門の脇（向かって左）には学校のシンボル・ヒマラヤ杉がそびえる

「人間形成と大学進学」を
教育目標に掲げる城北。
広々としたキャンパスに整った設備や施設、
クラブ活動は47あり、強豪クラブも多い。
生徒思いの情熱あふれる先生と、
切磋琢磨して成長する仲間たち。
城北には、生徒を伸ばす土壌がある。

城北

木の根のように、栄養を
いっぱい吸収してほしい

正門の横に、大きくそびえ立つ
ヒマラヤ杉。城北が板橋に根を下
ろして以来、80年にわたって生徒
たちを見守り続けました。校長の
小俣力先生は、「このヒマラヤ杉
のように凛と大きく育ってほし
い」とたびたび生徒に語りかけて
います。「でもね」と、小俣先生
は続けます。実は小俣先生は大学
時代に林業を学び、木の根がどう
なっているのか調べるため、土を
掘り起こした経験があります。
「幹や枝を支えるために、地下深
く根を張り巡らして土壌から栄養
分を吸収しています。本校の生徒
も、目に見えないところでいっ
ぱい栄養を吸収して、大樹のよう
な大きな男に育ってほしいのです」
その土壌が城北です。小俣先生

は「やってみたいと思った事に挑
戦できる教育環境を提供するのが
学校の役割」と力を込めます。
「教育面のソフトでは教員がいち
ばん大切です。教員は学校の財産。
本校の教員は教育熱心で、すばら
しい先生ばかりです」
ハード面での設備の改善も進ん
でいます。もともと都内有数の広
さを持つ恵まれたキャンパス。今
年の9月には1万1千平方メート
ルのグラウンド全面に人工芝が敷
かれ、水はけが良くなり、雨後の
早期利用が可能になりました。
クラブ活動・同好会の数は47種
類。水泳部は水球を専門にしてお



校長・小俣 力先生
2014年就任。第8代校長

DATA

男子校
取材日
2022年9月24日(土)



今年9月に完成したばかりの人工芝グラウンド。
水はけが良く降雨後の早期利用が可能に。天気
の良い日はグラウンドに寝転ぶ生徒も多いとか

り、水深180センチメートルの
本格的な完全屋内温水プールで1
年中練習に励みます。体育館、武
道場、テニスコート、ハンドボー
ルコートと、運動施設は都内でも



私立
中高一貫校
レポート

316

撮影に協力してくれたのは、高校2
年生の4人。撮影場所は大きな窓ガ
ラスから、さんさんと光が降り注ぐ
渡り廊下。リラックスした笑顔に、
高校生の余裕が感じられる



中1・数学

幾何の授業。立方体の図形がテーマ。中1は幾何と代数を分けて学ぶ



中1の1学期は先行して代数を行う。「方程式を利用する文章題などは算数の知識でも解けるのですが、それではいつまでも数学の思考が身につきません。一般的な解法に触れていくことで、思考を算数から数学へ移行させます」(渋谷先生)。同時に高校で履修する不等式も、授業に取り入れる。関連した分野をまとめて学習することで、より方程式への理解を深めるためだ。2学期から幾何に入り、再び代数に戻って関数を履修する。中1は、代数と幾何を分けて学ぶことでより習得が確かになるという。中2からは数学的な考え方が身についているので、代数と幾何を平行して進める。中学生の範囲は中2で終え、中3から高校の数学IAを取り入れる。高校入学生がいるため、中入生は高1はゆったりと進む。余裕がある分、つまづいている分野を克服したり、数学が得意な生徒は大学入試問題にもチャレンジしたりしている。

数学

中2と中3は習熟度別に授業を行うことで、数学が苦手な生徒も取りこぼさない。中1は週に数回プリントの課題を出して添削。答えだけでなく過程もしっかりチェック。



数学科主任
渋谷隆之先生

コラム 2

城北のICT教育



中2・情報

データの扱い方を学ぶ。WEBから、自分の身近な生活の中において誤解を招きやすいように作られている統計グラフを見つける

城北では早期からICT教育への取り組みを始めている。中1～中3で週に1時間学ぶ「情報」は、総合学習の時間を利用したオリジナル授業。動画や音楽制作といったクリエイティブなICTスキルのほか、リテラシーやプログラミングなど幅広く学ぶ。ここでの学びは卒業研究・制作や理科自由研究の発表にも活かされている。端末は生徒用にiPadとノートPC・MacBookなど500台が整備されている。また、私物端末を持ち込むBYOD(Bring your own device)も導入しており、家庭でも学校の延長上の学びができるように取り組んでいる。



4人組で化学の実験。「電解質とイオン」をテーマに、電解質と非電解質、物質そのものと水溶液にした時の性質を調べる



中2・理科

理科

理科は、実験や実習を数多く取り入れているのが特徴。中1・中2の「基礎期」には、年に約20回実験を行う。実験の後には、結果と考察をレポートやプリントにまとめて提出する。

中1・中2の夏休みには「理科自由研究」の課題が出される。疑問を探し、解決法を見つけて実験や観察を行いレポートにまとめる。中2生には1学期早々にテーマを決め、夏休み前から観察を行う生徒もいるという。中1は上野動物園で学芸員の説明を聞いたり、中2は長壽巡検、中3は国立科学博物館で研修を行ったりするなど、校外学習にも多く出掛ける。生物と物理は高2、化学は高3の1学期までに高校の内容を終え、大学受験の演習に取り組む。対策を早くから始めることで、安心して受験に臨んでもらいたいという狙いがある。



理科主任
根上英嗣先生



歴代の先生による収集、大学からの寄贈などの標本が展示されている。鯨の胎児など、めずらしい標本も

コラム 1

夏休み理科自由研究

中1・中2の夏休みの自由研究は、理科に特化しているのが同校の特徴だ。「理科は机上の学問ではなく、観察や実験を通して身につくもの」という先生方の思いが込められている。「身近な疑問を解決する」という課題に対して、自分でテーマを見つけて解決への道筋を考える。9月の始業式に提出されるレポートは900点に及び、予備審査を経て金・銀・銅・入賞を決定し、金賞は文化祭で発表。優秀作品は冊子にまとめられる。「日本学生科学賞」にもエントリーして、これまでに数々の作品が賞を獲得している。2022年には最優秀賞を受賞した。



優秀作品は冊子にまとめられる。歴代の優秀作が掲載された作品集は、厚さ10センチに及ぶほど厚い

21年度金賞作品のひとつ「渦のマジック!」のレポート。コーヒーにクリームを入れた時にできる渦に着想を得た



学力を身につける工夫を凝らした教科教育

生徒の学力を伸ばしているのが、学校の根幹を成す日常の授業です。理科は基礎期の中1・中2に実験や実習を数多く行います。理科主任の根上英嗣先生は「理科の授業を通して、科学的な考え方や視点を持つてほしい」と話します。そして、高校では受験の対策にも力を入れています。

「受験勉強は、どうしても英・数が優先され理科は後まわしになってしまいます。それならば、授業で受験に向けた内容を取り上げ生徒の負担を軽くしようと考えまし

群を抜く環境です。

「心を育てる教育」にも力を入れ、芸術や実技の授業も大切にしています。音楽は音楽室と器楽室の2教室で展開。1クラス分のヴァイオリンを準備し、2021年から中3生全員と高1の選抜者にヴァイオリンの授業を取り入れました。「大勢の観客を前に、演奏会を開きたいですね」(小俣先生)と夢は膨らみます。

数学科主任の渋谷隆之先生は、数学について次のように話します。「数学の楽しさは、自分で獲得した知識を使って新たな問題に立ち向かうこと。あたりまえだと思ふことに對しても、数学で説明できる場合があります」

盲目的にならないように、授業中あえて間違った内容を紛れ込ませ『どこか間違っているよ。探してみて』と尋ねることがあります。「生徒は教師が間違ったことを教

た」(根上先生)

高2の理科を週3時間から4時間に増やし、高3までの範囲をおおかた修了。高3では入試に直結した演習問題に取り組みます。根上先生は、学校での学びを終えてもずっと科学的な視点を持ち続けたいと言っています。

「理科は日常に密着した学問です。たとえば電車で急ブレーキがかかって身体が傾いたら、これは慣性の法則で習ったとか、天気図を見て、これは西高東低の気圧配置だとか、思い出してほしい。それだけでも、人生が豊かになると思います」

コラム 4

中学卒業研究

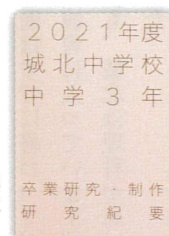
中3で、総合学習の集大成として行われているのが卒業研究だ。1年間かけて関心のあるテーマに取り組む。3学期にはクラスでのプレゼンを経て、生徒の相互評価で優秀作品を選び、中学修了式の時に卒業研究発表会として中学生徒全員の前で発表する。発表資料は「情報」の授業で培ったICT技術と知識を用いて制作にあたる。テーマは自然科学系、人文・社会科学系、音楽・美術・映像系と多岐にわたる。過去には「コオロギの共食い」「東日本大震災の復興事業とそれに関連する地域の実例」「飛行機の制作と原理」などが研究・制作された。



作品は生徒同士が評価し、選ばれた作品は中学修了式の壇上で発表する



内容もさることながら、発表資料もレベルが高い



卒業研究の紀要は年度ごとに冊子にまとめられる

食堂は昼・放課後OK!



450席ある広い食堂は、クラブ活動や自習に勤しむ生徒のために昼休みのほか放課後も営業。ランチ定食440円、ラーメン350円など値段がボリュームも満点

伝統の「静座」とは?



城北に代々受け継がれる「静座」。授業開始前に「静座」のかけ声で15秒ほど目を閉じ心を落ち着ける。休み時間から気持ちがりセットし、授業に集中できる

学校生活

います（いずれも既卒生含む）。小俣先生は言います。

「大学進学は夢をつかむための第一歩。目標とする大学に進学できるように、学力を高めるのも学校の役割です」

中3と高1では保護者や卒業生に來校してもらい、自身の職業について講話してもらいます。その話などを参考に将来の目標を決めて、大学へと向かいます。夏期・冬期には講習会が設けられ、生徒が必要な講座を選んで参加。高3は希望者が10日間学校所有の山荘にて100時間を目標に勉強漬けの日々を過ごす「大町学習室」を実施。城北では受験を団体戦と位置づけており、友達と一緒に勉強することでお互いに励まし合い、受験を乗り越えます。

「生徒が本来持っている伸びようとする力に対し、応援したい。それが城北なのです」（小俣先生）

城北という土壌でたつぷりと栄養を吸収した生徒たちは、学校のシンボルであるヒマラヤ杉のように大きくたくましく育っていきま

コラム 3

グローバル教育

主に希望者を対象に、学校オリジナルのプログラムが複数用意されている。そのひとつが、国内にいながら3日間、英語だけで過ごすイングリッシュ・シャワー。ネイティブの講師による指導で聞く、話す、読む、書くの4技能を徹底して鍛える。海外の講師とのオンライン英会話も人気のプログラム。中3と高1では夏休みを利用して15日間のオーストラリア語学研修も実施。さらに高1で、3カ月間ホームステイをしながら現地のハイスクールで学ぶターム留学も。現地では、音楽や体育などの授業にも参加し、生きた英語を学ぶ。



オーストラリア語学研修ではホームステイをしながら現地の生徒と触れ合う

中1・英語



英語

「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能をバランス良く学ぶ。中1・中2は週6時間のうち1時間は1クラスを2分割し、ネイティブの教員が行う。日本人教員の授業でも音読や暗唱を重視。



2人1組になり、質問のやりとりをする。タイマーを2分にセットして、テンポ良く会話を進める。授業はオールイングリッシュで

中1・中2では英語に慣れるために、洋楽などを使ったリスニングや音読に重点的に取り組む。中3・高1ではインプットとアウトプットをバランス良く行い、高2からはスピーチや英文など本格的な表現やアウトプットにもチャレンジ。卒業時を見据えて、学年、学期、授業ごとに逆算して指導の計画を立て、教材、課題量、プリントに使う英字のフォントに至るまで生徒の状況に合わせて変化させている。中1からネイティブの教員とのT.T.や、高2からはネイティブの教員のみでの授業が行われており、4技能を高める体制を整えている。

高1・書道



高校生の選択授業。和室の書道室で書をしたためる。静かに料紙に向かう佇まいが美しい

中3・音楽



ヴァイオリンは50台あり、中3は全員ヴァイオリンを演奏。「キラキラ星」を二つのパートに分かれて練習。約半年の授業で、みんな上手に弾きこなせるようになっていた

芸術

「心を育てる教育」として、芸術教育にも力を入れている。音楽では中3全員がヴァイオリンに取り組む。書道室は和室とスタンダード教室の2室を完備している。

生徒の夢を実現する大学進学への取り組み

人間形成とともに、城北がもうひとつの柱としているのが、大学進学への取り組みです。2022年春は東大9名を初めとして、国公立大に128名が合格。難関私大も慶應義塾大66名、早稲田大106名と高い進学実績を誇っています

「たとえば数学Aの『場合の数』、『整数』、『確率』などは大学入試に直結する分野ですが、終えてしまふと、その後学ぶ機会がないのです。高1で復習することで、しっかりと身につけることができます」

中2で中学3年間の課程を終え、中3で高1の課程を学びますが、高校から入学する生徒もいるため、極端な先取りはしません。その分中学入学生は高1でしっかりと復習します。



中高ではめずらしく、水球を行っている。強豪クラブで、今年は国体で優勝した東京都のチームに、同校から2人の選手が出場。また、中学はジュニアオリンピックに出場した



水泳部

クラブ活動



整備されたばかりの人工芝のグラウンドで練習。この日は小雨が降っていたが、人工芝グラウンドのおかげで多少の雨でも安全に練習ができる



バスケットボール部

見学した日は、近隣の高校と練習試合。一進一退の攻防を繰り広げていた



少林寺拳法部

高校は全国大会優勝を果たした強豪。高校生が中学生を指導する。中学生も今年の全国大会男子団体演武で4位の実績を上げている



鉄道研究部



10月に開催される文化祭に向けて最後の調整。田舎の町をイメージして模型を制作。文化祭では広い多目的ホールいっぱいに展示をする。夏には地方合宿も実施

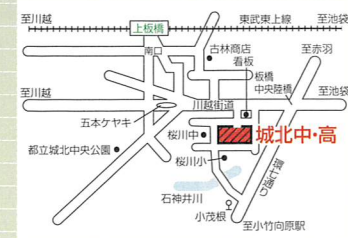


生物部



群馬県の片品村で部員が採集した昆虫の、標本作りを行っていた。標本にした昆虫に、一匹一匹ラベルを添えて丁寧に標本箱に入れていく

城北プロフィール <https://www.johoku.ac.jp/>



- 住所
〒174-8711
東京都板橋区東新町2-28-1
☎03-3956-3157
- 交通
東武東上線「上板橋駅」徒歩10分。西武有楽町線・メトロ副都心線 有楽町線「小竹向原駅」徒歩20分。JR中央線 総武線「高円寺駅」・JRなど「新宿駅」からバス。
- 中1総人数・1クラス人数×クラス数 (2022年)
286名・40~41名×7クラス
- 併設小学校からの入学人数
併設小なし

- 高校募集定員数 (2023年)
約85名
- 大学合格実績 (2022年春の合格者数・抜粋)
卒業生数329名 * ()内はうち現役生
東京大9(6)名/京大4(2)名/一橋大5(4)名/東工大3(3)名/北海道大9(5)名/東北大6(5)名/大阪大7(2)名/千葉大6(4)名/筑波大4(4)名/東京外国語大3(2)名/東京理科大学6(5)名/東京農工大16(8)名/横浜国立大3(3)名/慶應義塾大66(52)名/早稲田大106(84)名/上智大33(18)名/東京理科大学144(99)名/明治大160(120)名/青山学院大33(20)名/立教大60(33)名ほか

取材・文/柿崎明子 PHOTO/中林香

生徒インタビュー

成長できる環境が整っている学校です

城北を選んだ理由は？

西野開洋さん キャンパスには木々がたくさんあって、隣は城北公園。のびのび学校生活を送ることができると思いました。

石割奏輝さん 文化祭で訪れ、男子校ならではの盛り上がりがあった。とても楽しかった。少林寺拳法部の演武に感激しました。



高2 藤井徹太さん

クラブ活動の種類が多く行事や海外研修も豊富。やりたいことを見つけれられる学校です

キャンパスは緑が豊かで校舎も広い。設備も整っており勉強する環境が整っています



高2 西野開洋さん

好きな科目は？ 授業の様子も教えてください。

藤井徹太さん 中学の数学ではプリントの課題が出されて、先生とやりとりしました。答えがあってもやり方が適当だったり、過程でミスがあったりするとやり直します。丁寧に添削してくれるので、よく理解できて数学の成績がめちやくちや上がりました。

伊藤康太郎さん 理科が好きです。実験や実習が多いと思います。高校の範囲はすでに終わって、大学受験の演習に入っています。模試の成績も、城北は理科が高いと聞きました。

西野 英語は、リスニングで映画

などの自然な会話の音声も使うので、実践的な英語が身につきます。

カナダのチーム留学に参加しましたが、国によって「普通」の中身の違う。コミュニケーションが重要だと実感しました。

石割 城北は個性的な先生が多いと思います。僕は国語の先生がおもしろくて好きです。

石割さんは卒業研究で金賞に選ばれ、発表しましたね。

石割 はい。プロ野球の日本ハムが好きなので、全試合のスコアを独自に集計し分析しました。卒業研究は教科に縛られず、自分の好きなことをテーマにできるので、思い切り打ち込みました。



高2 石割奏輝さん

卒業研究は教科に限らず、好きなことをテーマに研究します。とことん打ち込みました

親身になってくれる先生と仲間がいる。将来自分に息子ができたら絶対城北に入れます！



高2 伊藤康太郎さん

城北のアピールを！

石割 先生は個性があり、生徒もみんな優しい。みんなで高め合って伸びていく学校です。

伊藤 第1志望じゃなかったけど、本当に良い学校だと思います。将来自分に男の子がいたら、絶対城北に入れます(笑)。第1志望じゃなかった人も、充実した6年が過ごせますよ。

西野 誰もが何かしら得意なことがあり、みんなで切磋琢磨できます。広い校舎だからこそ、のびのびと学べます。

藤井 授業も楽しいし、悩みに先生が親身に応じてくれます。自分は城北で成長できました。